

1 2 気象災害（暴風・大雨・大雪等の警報発令等）時の対応

1 暴風・大雨・大雪等の警報発令等

| 情報 | 登 校 前 発 令 | 登 校 後 発 令 |
|----------------|--|---|
| 暴風・大雨・大雪・暴風雪警報 | <p>①警報が、午前6時の時点で福岡市、糟屋郡内のいずれかに発令され、かつ公共交通機関が運休の場合 → 自宅待機</p> <p>②警報が、午前6時の時点で福岡市、糟屋郡内のいずれかに発令されているが、公共交通機関が運行されている場合 → 安全に十分配慮して登校 ただし、安全に登校することが心配される場合は、学校に連絡し、自宅で待機するか状況を見て登校。</p> <p>③午前11時の時点で、警報が解除されず、かつ公共交通機関が運休の場合 → 休校</p> <p>④午前11時の時点で、警報が解除されていないが、公共交通機関が運行されている場合 → 安全に十分配慮して5限に間に合うように登校 5・6限は授業実施。</p> <p>※自宅待機・休校等の判断はJR香椎線の運行状況を基準とする。JR香椎線を利用していない生徒も同様。</p> | <p>気象情報や地域の実情等を考慮し、判断する。 【下校させる場合】</p> <p>①安全確認後、下校。 <確認事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通、道路情報の確認 ・保護者等引取りの有無 ・自転車通学生の安全指導 ・下校途中で帰宅不能になった場合の対処方法 <p>②安全な下校が困難な生徒については、保護者等と連絡をとり、適切な対応をする。</p> |
| その他の警報及び注意報 | <p>気象情報や地域の実情等について保護者等と相談し、安全に登校できるかどうかを判断</p> <p>①安全に登校（下校）することが心配される場合 → 学校に連絡して自宅で待機するか、状況を見て登校</p> <p>②午前6時の時点でJR香椎線（香椎～宇美間）が不通の場合 → 自宅待機 午前11時まで、JR及び西鉄バスの運行状況をみて一斉配信、学校ホームページ等でその後の対応について連絡する。</p> | <p>①気象情報や地域の実情等に依じて下校させることもある。</p> <p>※学校ホームページ http://sue.fku.ed.jp/ (緊急モードへ切り替える)</p> |
| 避難指示 | <p>付近の避難所に必ず避難する（ハザードマップで確認）。</p> <p>①行政が指定した避難場所（本校含む） ②安全な親戚・知人宅 ③安全なホテル・旅館 ④「3つの条件」を確認した自宅（土砂災害危険区域を除く）</p> | <p>「3つの条件」</p> <p>①家屋倒壊等氾濫想定区域外 ②想定最大浸水深より高い居室 ③水が引くまで我慢ができ、水・食料等の備えが十分。</p> |
| その他 | <p>前日に指示が出せる場合は終礼にて連絡を行う。特段の指示がない限りはこのマニュアルにしたがって対応する。</p> | |

2 雷への対応

- ・雷は、積乱雲の位置次第で、海面、平野、山岳など場所を選ばず落ちる。また、周囲より高いものほど落ちやすいという特徴がある。
- ・グラウンド、平地、山頂、尾根等の周囲の開けた場所にいると、積乱雲から直接人体に落雷(直撃雷)することがあり、その場合、約8割の人が命を落とすとされている。
- ・落雷を受けた樹木等のそばに人がいると、その樹木等から人体へ雷が飛び移る(側撃雷)ことがある。
- ・遠くで雷の音がしたら、既に危険な状況である。自分のいる場所にいつ落雷してもおかしくない。

〈積乱雲が近づくサイン〉

まもなく、激しい雨と雷がやってくる。竜巻などの激しい突風が起きる恐れもある。



真っ黒い雲が近づく



雷の音が聞こえてくる



急に冷たい風が吹く

避難

- 部活動などの屋外活動を中断し、速やかに屋内に避難。(本校は高台にあるので特に注意)
- 下校前の場合は、素早く情報を収集し、必要に応じて学校に生徒を待機
→学校の対応を保護者等へ連絡。

〈雷鳴が近くで聞こえたら〉

- 登下校時に発生した場合には、近くの安全な場所に避難し、無理に屋外を移動しない。
- 自転車に乗っている場合は、すぐに降りて姿勢を低くして、安全な場所に避難する。
- 鉄筋コンクリート建築、自動車、バス、電車の内部は比較的安全である。
- 木造建築の内部も基本的に安全だが、全ての電気器具、天井・壁から1m以上離ればさらに安全である。

〈安全な場所に避難できない場合〉

- 低い場所を探してしゃがむなど、できるだけ姿勢を低くするとともに、地面との接地面をできる限り少なくする。
- 電柱、建築物などの高い物体のてっぺんを45度以上の角度で見上げる範囲で、その物体から4m以上離れたところに退避します。
- 高い木の近くは危険なので、最低でも木の全ての幹、枝、葉から2m以上は離れる。(木の下での待機はNG)



※気象庁による雷情報はこちら →



3 竜巻への対応

- ・竜巻は、発生予測が難しく移動速度も速いことなどから、発生時には迅速な対応が求められる。
- ・積乱雲が発生していたり雷鳴が聞こえたり、不安定な気象状況が見られたら、気象に関する情報を収集するとともに、竜巻の予兆につながる状況が見られたら、竜巻注意情報の有無にかかわらず警戒態勢をとり、竜巻が発生した際の対応の準備をする。

〈竜巻の予兆〉

- 真っ黒い雲が近づき、周囲が急に暗くなる。 ○雷鳴が聞こえたり、雷光が見えたりする。
- 冷たい風が吹き出す。 ○大粒の雨や、ひょうが降り出す。

〈竜巻が起こったら〉

- 「ゴー」という音が聞こえてくる。 ○真っ黒い雲から漏斗状の雲が下がって見える。
- トタン板や発泡スチロールなどのごみが宙を舞ったりする。

避難

〈教室にいる場合〉

- 飛来物の影響を抑えるため、窓を閉め、カーテンを引く。
- 窓ガラスからできるだけ離れる。
- 丈夫な机の下に入るなど、身の回りにある物で頭を守るなどの避難姿勢をとる。

〈教室以外の校舎内にいる場合〉

- 雨戸やシャッターを閉じる。
- 風の通り道やガラスが飛んでくるのを避けられる場所に身を寄せる。
- 壁に近い場所で避難姿勢をとる。 ○建物の最下階に移動する。

〈体育の授業や部活動などで屋外にいる場合〉

- 校舎など頑丈な建物に避難する。
- 物置やプレハブ(仮設建築物)などには避難しないようにする。

〈登下校中の場合〉

- 屋根瓦など飛ばされてくるものに注意する。○橋や陸橋の下に行かないようにする。
- 近くの頑丈な建物や地下などに避難し、建物に避難できない場合は、くぼみ等に身を伏せ、横風を受けないようにする。

〈竜巻から身を守るためには〉

生徒へ事前に指導し、竜巻への理解を深めるとともに、竜巻から身を守るための行動について考える学習や、様々な場面を想定した避難訓練等によって、生徒が自分で判断し行動できるようにする。

- 竜巻と発生源である積乱雲の視覚的イメージについて ○竜巻の移動スピードについて
- 竜巻が発生しやすい天気や地形について ○竜巻によって起こる様々な被害について